ない 荘貝塚

(出水市荘)

位置と環境

本貝塚のある出水市荘は、出水平野の西端にあり、 出水市街地から7km、国道3号線沿いにある出水市 の飛び地である。紫尾山から流れる高尾野川と野田 川は河岸段丘を造りながら下流には沖積地を発達さ せ、貝塚の下流で合流し八代海に流れ込んでいる。 貝塚はこの二つの河川に狭まれた扇頂端にあり、荘 中学校の東側畑地にある。

調査の経緯

昭和43年(1968年)の発見に始まり、その後、出 水市教育委員会は範囲確認調査を含め、4回の発掘 調査を行っている。

第1次調査, 貝塚の範囲確認調査, 昭和48年 (1973年) 3月27日~4月4日

第2次調査,市道拡幅に伴う緊急調査,昭和53年 (1978年) 8月2日~8月22日

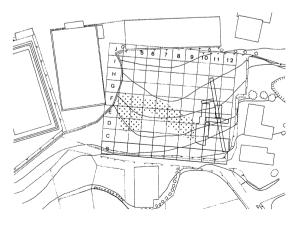
第3次調査,住宅建設に伴う確認調査,昭和61年 (1986年) 12月1日~12月3日

第 4 次調査,住宅建設に伴う緊急調査,昭和63年 (1988年) 5 月16日 \sim 6 月10日

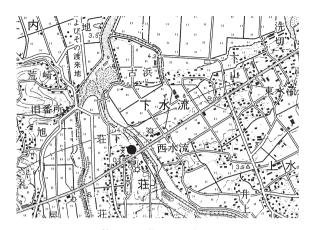
遺構と遺物

第2図に、4回の発掘調査の位置を表示した。

第1次の調査では、貝層の北端を確認し、南側へ 貝層が広がる可能性を指摘している。また、縄文時 代前期の轟式土器を主体とする貝塚で、IV層に貝層 があることも確認している。同時にカーボン年代測



第2図 調査位置



第1図 荘貝塚の位置

定も行い、BP5490±60年の測定値を得ている。

第2次調査では、工事計画に沿って台地の東側を ほぼ南北に調査を行い、この一帯が繰り返し生活の 場として利用されていたことが明らかになった。

最初期に貝塚形成が行われ,その後,古墳時代, 中世,近世と変遷したことが判明している。

第3次と4次調査は、43年調査に重なる位置で行われ、北東方向に流れる貝層の北端を確認している。4回の発掘調査と詳細な観察の結果、貝層は第2図で示したように帯状に広がることが予測できたが、ボーリング棒の観察では、小ブロックの貝層が多数点在している可能性がある。

16類に分類した縄文土器の15類が貝塚と直接関係 した土器で、特に、8類・9類土器はその後、荘タ イプの轟式土器として、土器研究に貢献している。 石鏃、尖頭状石器、楔形石器、石匙、削器、ドリル などの小型の石器が多量に出土している。そのほか、 カキ類の採取具とされる双角状石器が10点あり、貝 塚特有の構成を示している。錘飾品では玦状耳飾、 丸玉、鹿角製品も発見されている。貝層からは、海 水産の巻貝2種と二枚貝8種が、動物はイノシシ、 シカ、キジが確認されている。動物の小骨が多いこ とが注目され、骨を割断して骨髄を食べていた可能 性が指摘されている。

中世の遺物については,薩摩国図田帳に記載される老松庄との関係が考えられる。近世は,湧水面で杭列や堤状の集石帯,炉状の焼土遺構と共に唐津焼を中心とした多量の陶器が発見されている。その目的については明らかにされていないが,前面の湿地

帯との関係した施設と考えられる。

特徴

轟式土器を主体とした縄文時代前期の貝塚で,ま た本県の数少ない貴重な貝塚のひとつである。4回 の調査は, 貝塚周辺部に限られており, 貝塚の大部 分は残されている。

資料の所在

出土遺物は, 出水市教育委員会に保管・展示され

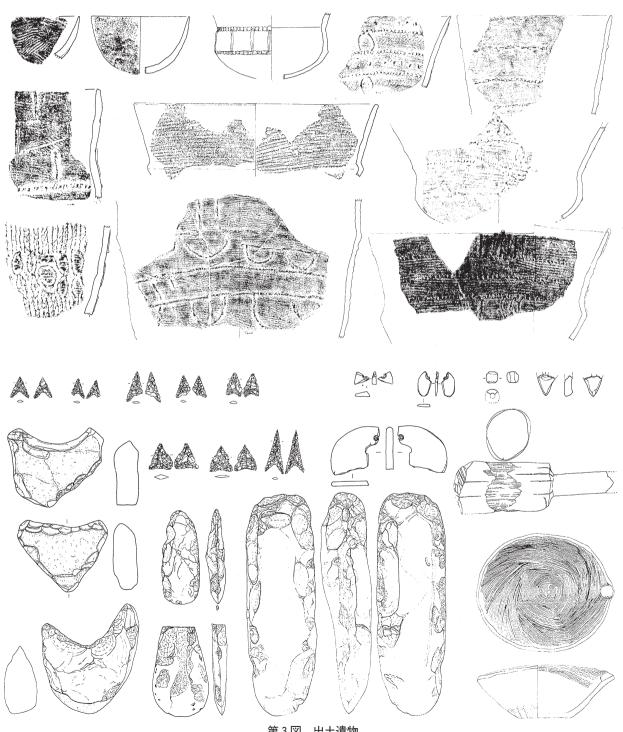
ている。

参考文献

出水市教育委員会1979「荘貝塚」『出水市文化財調 査報告書』1

出水市教育委員会1989「荘貝塚」『出水市埋蔵文化 財発掘調査報告書』3

(長野眞一)



第3図 出土遺物



写真1 近景



写真 2 出土遺物